

# 学内広報

2004. 2. 12  
東京大学広報委員会

「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展（1月24日～4月12日）内覧会開催される



長崎市浦上天主堂の遺物と解った獅子頭

(9 ページに関連記事)

## 目次

広報委員会（東京大学の法人化に関するQ&A）	2
一般ニュース	3
平成16年度大学入試センター試験終わる、平成16年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付終わる	
部局ニュース	4
退官教官の最終講義、21世紀COE国際シンポジウム「多圏地球システムの進化と変動の予測可能性」開催される、農学系学生サービスセンター完成する、大学院農学生命科学研究科寄付講座「機能性食品ゲノミクス」開設記念式典を開催、千葉演習林と天津小湊町が協定締結、大学院総合文化研究科・教養学部学生相談所（駒場）創設50周年記念企画・記念式典開催される、第2回基礎学力シンポジウム開催される、東京大学技術研修「高圧下の物質合成と物性測	

定技術関係」行われる、「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展内覧会・レセプション開催される	
キャンパスニュース	9
東京大学囲碁部、連覇達成	
掲示板	10
平成16年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について、「教養学部報」第472（2月4日）号の発行、21世紀COEプログラム「ゲノム医学の展開による先端医療開発拠点」/IMSUT International COE Symposium Translational Research、博物館公開セミナー「石の記憶」展にちなんで、保健センターの業務休止のお知らせ	
事務連絡（人事異動（教官））	13
訃報（中村道徳名誉教授）	14
淡青評論「Dejima」	16

## ≡ 広報委員会 ≡

## 東京大学の法人化に関するQ &amp; A

**Q：** 組織の設置・廃止や学生入学・収容定員の変更は大学の裁量でできるようになりますか。

A： 基本的には各国立大学法人の判断で実施可能となりますが、中期計画・中期目標との関係を整理する必要があること及び運営費交付金の算定に影響するものなどは、文部科学省との協議が必要となります。

また、学部、研究科等の新設であっても学位の種類及び分野の変更を伴わないものについては、大学設置・学校法人審議会の意見伺いを行う必要はなく、届出で設置が可能となっています。

**Q：** 法人化後の寄附金に対する寄附金税制の取扱いはどうなるのでしょうか。

A： 寄附金に関する税制については、個人からの寄附金は、年度所得の25%を限度として所得税控除が可能、法人からの寄附金は、原則として、全額損金算入が可能、という現状の控除及び損金算入の取扱いが維持される見込みです。

**Q：** 法人化後の教職員の給与については法人が定めることになるとと思いますが、どのようになるのでしょうか。

A： 法人化後の教職員の給与支給基準については、「就業規則」により法人が定めることになり、本学としては現行の給与水準を維持したいと考えています。なお、その給与の財源は国から措置される運営費交付金によるため、給与の増額や手当の新設などについては、説明責任を果たすことなどが必要となります。

**Q：** 法人化後に教員に任期を付す場合、任期の期間に上限が設けられますか。

A： 大学の教員等の任期に関する法律（以下「任期法」という。）における「任期」とは、「雇用を保証する期間」となっています。また、民法第626条第1項には、5年を超える有期労働契約について、5年経過後に使用者側にも解約権を認めているため、5年を超えて雇用を保証することができません。

このため、任期法に基づいて任期を付す場合、「5年」が上限となります。

**Q：** 法人化によって教員の兼業が緩和されると聞きますが、どのようになるのでしょうか。

A： 教員の兼業については、社会還元や産学官連携活動の推進から規制緩和が望まれているところですが、国民の税金である運営費交付金で給与が賄われることから、本務に影響しないことなど何らかの基

準は必要です。そのため、「就業規則（第一次案）」では兼業を行う場合には許可を得なければならないものとしています。

**Q：** 法人化された場合の「東京大学」又は「東大」の商標権はどのようになるのでしょうか。

國分裕之（創域：D1）

A： 本学では、ユニバーシティ・アイデンティティーを構築する一環として、法人化を契機に「東京大学」「東大」「University of Tokyo」の各名称及び「銀杏バッジマーク」「新東京大学マーク」「東京大学グッズマーク」の6種類について商標登録の手続きを行っています。

なお、従前から使用されている「東京大学・・・」「東大・・・」等の組織等名称並びに「東京大学」「東大」の文字を使用したグッズ及び「銀杏バッジマーク」を使用したグッズなどの商標権の対応は、商標登録完了後、必要な措置を講じたいと考えています。

## 東京大学の法人化に関する質問を募集します。

多くのみなさんからの質問をお待ちしております。

**募集期間** 平成16年2月末日まで  
**応募方法** 所属、氏名、質問内容、連絡先を必ず記載のうえ、電子メール又はFAXにより広報室宛にご送付ください。なお、質問の掲載については、質問者の氏名を併せて記載いたしますので、匿名希望の方は必ずその旨をご記載ください。

**備考** 全ての質問にお答えすることができないことも考えられます。その点は、何卒あらかじめご了承ください。

**宛先** 事務局総務部総務課広報室  
内線：22031、82032  
FAX：3816-3913  
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

(広報委員会)

## ≡ 一般ニュース ≡

### 平成16年度大学入試センター試験終わる

一本学は7試験場196試験室でー

平成16年度大学入試センター試験は、1月17日（土）、18日（日）の両日にわたって実施された。

全国の志願者数は587,350人で、国公立大学及び大学入試センター試験に参加した私立大学と私立短期大学で一斉に行われた。

本学では、10,813人の志願者が、本郷・駒場の両キャンパスと都立高等学校1校（白鷗）・私立高等学校4校（富士見丘、海城、共立女子、開成）の7試験場196試験室で受験した。第1日目の「外国語」では、9,895人が受験し、志願者総数に対する受験率は91.5%（前年度89.5%）であった。



本郷試験場

(学生部)

### 平成16年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付終わる

平成16年度外国学校卒業学生特別選考の願書受付は、第1種が12月10日（水）、第2種が11月13日（木）に締め切られた。

志願者は、第1種（外国人）117人、第2種（日本人）120人、合計237人で前年度より24人増であった。

今後は、書類審査による第1次選考の合格者に対し、2月25日（水）から第2次選考を実施する。

### 平成16年度外国学校卒業学生特別選考願書受付数

種別 科類	第1種		第2種		合計	
	平成 16年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 15年度	平成 16年度	平成 15年度
文科一類	11件	7件	42件	20件	53件	27件
文科二類	30	35	11	15	41	50
文科三類	8	9	26	32	34	41
理科一類	52	43	20	15	72	58
理科二類	13	13	12	12	25	25
理科三類	3	4	9	8	12	12
合計	117	111	120	102	237	213

なお、志願者の種別の人数、国籍等（第1種）及び修学先の所在国名等（第2種）の内訳は、次のとおりである。

#### 【第1種】 (国・地域)

中国	85人
韓国	15人
台湾	4人
インドネシア	4人
マレーシア	3人
ベトナム	2人
アメリカ	2人
コロンビア	1人
ベルギー	1人
<hr/>	
(合計)	117人

#### 【第2種】

アメリカ	58人	台湾	2人
イギリス	15人	オーストリア	2人
オーストラリア	10人	ドイツ	1人
フランス	4人	シンガポール	1人
タイ	4人	ベルギー	1人
中国	3人	フィリピン	1人
ニュージーランド	3人	ブラジル	1人
スイス	3人	韓国	1人
オランダ	3人	インドネシア	1人
スペイン	2人	ケニア	1人
カナダ	2人	ネパール	1人

(合計) 120人

(学生部)

≡ 部局ニュース ≡

退官教官の最終講義

このたび、本学を退官される方々の最終講義・講演等の日程と題目をお知らせいたします。

大学院医学系研究科・医学部

井街 宏 教授 3月19日(金) 15:30~16:30  
(生体機能制御学分野) 医学教育研究棟14階 鉄門記念講堂  
「研究における発想の転換」(仮題)

伊賀 立二 教授 3月5日(金) 16:00~17:30  
(医学部附属病院) 医学教育研究棟14階 鉄門記念講堂  
「臨床における薬学の展開—十五年の軌跡—」

大学院人文社会系研究科・文学部

佐々木健一 教授 3月5日(金) 15:00~17:00  
(基礎文化研究専攻、美学芸術学専門分野)  
法文2号館 1番大教室  
「葦の髄より見た美学」

大学院新領域創成科学研究科

正路 徹也 教授 2月23日(月) 16:30~18:30  
(環境学専攻) 工学部4号館 地球汎用室  
「情報取得論」

渡邊 公綱 教授 3月3日(水) 15:00~17:00  
(先端生命科学専攻) 工学部5号館 51号講義室  
「RNAと共にした私の研究室遍歴」

桂井 誠 教授 3月5日(金) 15:30~17:00  
(先端エネルギー工学専攻) 山上会館 2階 大会議室  
「放電・プラズマ・核融合研究の展開」

澤田 嗣郎 教授 3月9日(火) 15:00~17:00  
(物質系専攻) 工学部5号館 51号講義室  
「光音響・光熱変換分光法に憑かれて」

板生 清 教授 3月11日(木) 16:00~17:30  
(環境学専攻) 工学部11号館 1階 講堂  
「ネイチャーインタフェイスの世界を拓く」

田村 昌三 教授 3月15日(月) 15:00~17:00  
(環境学専攻) 弥生講堂 一条ホール  
「エネルギー物質と環境・安全の化学」

地震研究所

笠原 順三 教授 3月26日(金) 13:30~  
(地震地殻変動観測センター) 地震研究所 第一会議室  
「Spatial and Temporal よもやま話し」

生産技術研究所

橋 秀樹 教授 3月15日(月) 15:00~16:30  
(人間・社会部門) 生産技術研究所  
第一会議室 (Dw601)  
「音の文化と工学」

宇宙線研究所

吉村 太彦 教授 3月19日(金) 15:00~16:30  
宇宙線研究所 6階 セミナー室  
「素粒子そして宇宙」

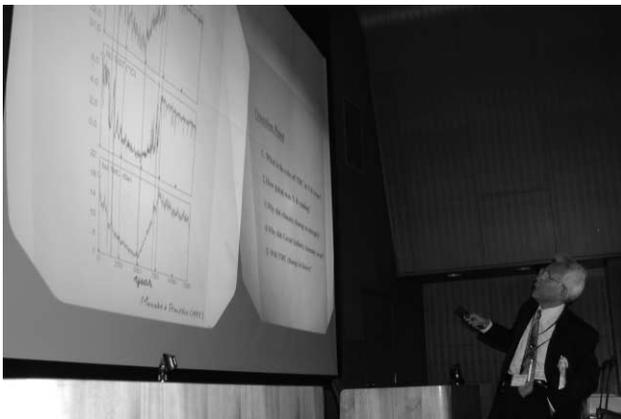


## 21世紀COE国際シンポジウム「多圏地球システムの進化と変動の予測可能性」開催される

1月8日（木）および9日（金）の両日9時より18時まで、山上会館大会議室において、東京大学21世紀COEプログラム「多圏地球システムの進化と変動の予測可能性」の主催で表記シンポジウムが開かれた。

最初に小宮山副学長からの挨拶、続いて山形COEプログラムリーダーの開会の辞が述べられた。引き続き「Evolution and Predictability of Earth System」、 「Variation and Predictability of the Earth's Environment」、 「Evolution and Predictability of Earth Interior System : Multi-Scale Observations」、 「Evolution and Predictability of Earth Interior System: Simulation」の講演発表が行われた。いずれも100人前後の満場の観衆を集め、活発な討論が交わされた。

国内の大学、法人、企業などのほかに、アメリカ、ロシア、オーストラリア、中国、インド、韓国、フランス、スイスなどからも多数の参加者があった。



眞鍋プリンストン大学教授の講演

(大学院理学系研究科、地震研究所、  
気候システム研究センター、海洋研究所)

## 農学系学生サービスセンター完成する

内装工事の一部を残して昨年10月1日（水）に開設した農学系学生サービスセンターが、このたび全工事を終え、完成した。開設以来、授業開始前から夜間にいたるまで、諸事務手続きや掲示類・モニターによるインフォメーション機能はもちろんのこと、学生同士の食事や懇談などのコミュニケーションの場として多くの学生に利用されている。

内装材は、慢性的に不足している学生の憩いとやすらぎの場を提供し、落ち着いた雰囲気を醸し出すべく検討した結果、農学生命科学研究科附属演習林産の木材を使用することにし、北海道のウダイカンバとすることにした。ウダイカンバの中でも心材に赤味がかったものはマカバと称され、国産材としては最高級の内装材・家具材



使用したウダイカンバ

として用いられる。とくに北海道演習林産のマカバは全国的にも有名である。原木は演習林内59林班、101林班に生育していた樹齢約260年のウダイカンバ（マカバ）で、枯れる寸前と判定されたものを今回は現在の最高の技術でこれを柾目のツキ板に加工し、施工した。ツキ板とは原木を0.20mm～0.55mmの厚さにスライスし、これを合板などの基板に貼り付けたもので、稀少な原木を有効利用する技法である。使用されたウダイカンバは、本学で学生諸君の出入りを眺めながら第二の樹生を歩むことになる。伐採跡ではすでに天然の若木が陽光を受けて成長を開始している。北海道演習林ではこのように天然更新のサイクルが持続する森林経営を創設時より行っている。

センターを利用する学生からは「入口の自動扉を入ると一瞬にしてまばゆいばかりの鮮やかな柾目に温かく包まれ、心安らぐ」など、賞賛の声が多く寄せられている。



センター全景

(大学院農学生命科学研究科・農学部)

## 大学院農学生命科学研究科寄付講座「機能性食品ゲノミクス」開設記念式典を開催

食品は私たちに栄養を供給し、おいしさを提供してくれる。それだけではない。食品成分には糖尿病、高血圧、動脈硬化、がん、アレルギーといった病気を予防する働き（機能）を示すものがある。そのような成分を強化した食品を機能性食品といい、20年も前に本学農芸化学科（当時）が研究の先鞭をつけた。それが今、欧米を中心に大きく発展し始めた。機能の本質を遺伝子科学（ゲノミクス）で究明し、食品産業の新展開を図る動きも活発になってきた。

こうした中、平成15年12月1日（月）、NPO日本国際生命科学協会（イルシージャパン）に参加する食品企業のうちの27社の支援によって産学連携型の標記の寄付講座が誕生した。国際的にみてもきわめてタイムリーである。

1月29日（木）に举行された「開設記念式典」では、佐々木総長が「本学が世界に発信した機能性食品科学とその産学コンソシアム型研究の発展を祈念する」と、



記念式典であいさつをする佐々木総長

會田農学生命科学研究科長が「本研究科が世界をリードする食の研究の中に生まれた本寄付講座の意義を強調したい」と挨拶され、寄付者側代表の木村修一氏が産業界の期待の大きさを披露され、担当の松本一朗助教授の決意表明があった。

続いて、味の素（株）特別技術顧問山野井昭雄氏の「食品研究と産学連携」、東京農業大学・荒井綜一教授の「機能性食品への道」、本研究科・阿部啓子教授の「食品科学とゲノミクス」の記念講演があった。

祝賀パーティーでは、再び佐々木総長が祝辞を述べられ、来賓の文部科学省研究振興局鈴木達也生命科学専門官から「本省での期待」、明治乳業（株）常務取締役桑田有氏から「食品産業界での願望」が寄せられた。そして前農学生命科学研究科長の林教授が「農学系の先端研究の成功を祈念して乾杯」の音頭をとられた。パーティ

ーには本学教官約40名、企業40社の幹部が参加され、大きな交流の輪が広がった。

（大学院農学生命科学研究科・農学部）

## 千葉演習林と天津小湊町が協定締結

大学院農学生命科学研究科附属演習林千葉演習林は、このほど地元天津小湊町と地域交流に関する協定を締結、1月22日（木）、調印式が行われた。

協定の内容は、自然保護・森林保全等、森林エコツアー・森林資源利用等において双方協力しあい、あるいは講演、シンポジウムを通じて交流を促進しあうことを約したものである。

調印式は、農学部3号館農学部長室において、會田研究科長、永田演習林長をはじめとする教職員立ち会いのもとで行われ、山本千葉演習林長、片桐天津小湊町長がそれぞれ協定書に署名、交換して、協定は締結された。

7つの地方演習林のうち、地元自治体との協定締結は、昨年5月の犬山市と愛知演習林に続いて、今回の天津小湊町で2つめである。



調印を終え握手する片桐町長と山本千葉演習林長（向かって右から、片桐町長、永田演習林長、會田研究科長、山本千葉演習林長）



署名する片桐町長（手前）と山本千葉演習林長

（大学院農学生命科学研究科・農学部）

## 大学院総合文化研究科・教養学部学生相談所 (駒場) 創設50周年記念企画・記念式典開催 される

大学院総合文化研究科・教養学部学生相談所では、本郷学生相談所につづき、創設50周年を記念して(1)時計台公開、(2)第1回学生相談メンタルヘルス講演会、(3)50周年記念文庫の設置、(4)記念式典を行った。

時計台公開は1月14日(水)に行われ、駒場Iキャンパス1号館時計台の最上階部分を公開すると共に学生相談所のPRも行い、約850名の学生・教職員が訪れた。

第1回学生相談メンタルヘルス講演会は1月15日(木)、教養学部学際交流棟学際ホールにおいて本郷学生相談所OBの齋藤憲司先生(東京工業大学)により「東大生のこころー駒場で見る夢と現実ー」という演題で行われ、東大生のイメージや大学生活のモデルなどについて語られた。



講演の様子

50周年記念文庫の設置は、50周年を記念して日常生活や将来の進路・修学に役立つ様な本を中心に揃え、学生への貸出しができるようになった。

記念式典は1月26日(月)、教養学部アドミニストレーション棟第三会議室において開催され、繁榎算男学生相談所運営委員長、木畑洋一教養学部副学部長の挨拶・乾杯のあと、歓談をはさみ学生相談所の現状報告、歴代運営委員長・相談員の祝辞、市川伸一本郷学生相談所長の挨拶をいただき、学生相談所のさらなる発展を期してお開きとなった。



記念式典での記念撮影

(大学院総合文化研究科・教養学部)

## 第2回基礎学力シンポジウム開催される

1月13(火)~14日(水)、大学院教育学研究科 基礎学力研究開発センター(21世紀COEプログラム)と学校臨床総合教育研究センターの共催により、「第2回基礎学力シンポジウム」が鉄門記念講堂において開催された。

フロアには、各地の教育委員会や学校教員の参加者に加え、教育関係企業や民間の教育研究所からの参加者もあり、両日ともに百数十名を迎えることとなった。自治体・学校の現在を報告する今回のシンポジウムの内容が、広く関心を集めたのだと思われる。

1日目のセッション1では、COE事務局からの「都道府県学力調査の報告」と、COE学力基礎調査・分析ユニットからの「数学力診断テスト“COMPASS”の開発についての報告」が行われた。つづくセッション2では、2つの市の教育長を招き、学校や教師を支える市教委の取り組みのご報告をいただいた。

2日目は学校臨床総合教育研究センターの活動が報告されたのち、パネルディスカッションが2つ組まれた。1つめのディスカッションでは、学校あるいは個々の教室の授業に根ざした改革の取り組みが議論された。2つめのディスカッションでは、児童生徒を取り巻く学習環境をどのようにサポートしていくのかという問題を中心に話し合われた。

今回のシンポジウムは2つのセンターの共催という初めての試みであったが、両センターの教育現場と連携した活動や研究の成果を社会に還元する有意義なシンポジウムとすることができた。また同時に、パネリストやフロアから両センターの今後の活動への示唆を与えていただく貴重な機会ともなった。



フロアからの質疑に答えるパネリスト

(大学院教育学研究科・教育学部)

## 東京大学技術研修「高圧下の物質合成と物性測定技術関係」行われる

平成15年度東京大学技術職員研修「高圧下の物質合成と物性測定技術関係」が、12月15日（月）～17日（水）に柏キャンパスの物性研究所で開催された。

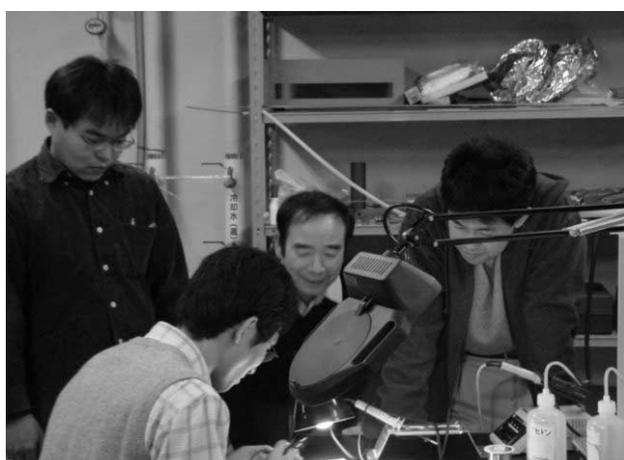
物質科学においては、物質合成とその物性評価が実験的研究の両輪をなしており、両方を体験することによって物質科学研究の最前線の一端を実感し、あわせて基礎的知識・技術を習得し、技術職員としての資質の向上を図ることを目的として、本研究所の新物質科学研究部門の技術職員と教官の協力により、実施された。

具体的な実習課題は、現在話題の物質である充填スツテルナイト化合物超伝導体の高圧合成とその電気抵抗・圧力下磁化測定である。



見学風景

(物性研究所)



実習に取り組む参加者

1日目は、午前中に高温・高圧力発生技術と応用に関する講義が行われ、午後は、講義で学んだ技術を使って、約7K付近で超伝導転移を示すスツテルナイト化合物「 $\text{LaRu}_4\text{P}_{12}$ 」を合成する実習を行った。

2日目は、超伝導体の特徴やスツテルナイト化合物に関する講義を受講後、前日に合成した試料を高圧力発生装置から取り出し、電気抵抗測定および圧力下の磁化測定の実習を行った。

3日目の午前中は、核磁気共鳴の基本原理の講義並びに高圧下の核磁気共鳴装置の測定方法の説明があり、実際に常温時の $\text{CuO}_2$ のスピンエコーの観測を体感し、引き続き、核磁気共鳴法などの手法を使った超伝導物性の講義で理解を深めた。また午後には、前日から一晩かけて自動収集した電気抵抗と磁化の測定結果を参加者全員で確認し、超伝導転移温度の圧力変化など測定結果に対する解説に活発な質疑応答が行われた。

今回の研修は、様々な分野からの参加者ではあったが、盛り沢山の内容の講義・実習にもかかわらず、意欲的に取り組み、職場では経験できない実験技術や先端的な実験装置に接し、受講者全員にとって大変有意義な3日間の研修となった。



柏キャンパス 物性研究所

## 「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展内覧会・レセプション開催される

1月23日（金）、総合研究博物館において特別展示「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展の内覧会・レセプションが行われました。

今回は、理学部地質学教室の教授であった故渡辺武男先生（初代総合研究資料館館長）が、原子爆弾災害調査研究特別委員会の委員として、原爆投下後の昭和20年と21年に広島・長崎を調査したときに収集した岩石や建材、スナップ写真を展示しています。

展示ルームの一角に獅子頭という石像があります。この像は博物館で長い間、広島護国神社の狛犬の被爆試料と言いつたえられていました。これを昨年、田賀井篤平教授が展示企画中に、狛犬が実は長崎の浦上天主堂の柱に飾られていた獅子頭像である事を発見し、新聞紙上を賑わせました。

その他、渡辺先生が約50年に及ぶ調査で愛用したLeica製のカメラやフィールドノート約360冊（うち2冊が原爆調査のもの）等も展示しています。

内覧会・レセプションは森巨元総長や渡辺先生のご親族をはじめ多数の出席者があり、盛況のうちに終了しました。

会期：1月24日（土）～4月12日（月）

毎週月曜日休館（4月12日は閉館）

（2月25日（水）2月26日（木）は閉館）

開館時間：10時～17時（入館は16時30分まで）

会場：総合研究博物館

入場料：無料

ハローダイヤル：03-5777-8600

URL：http://www.um.u-tokyo.ac.jp



渡辺顯氏（渡辺先生のご長男）と田賀井篤平教授

（総合研究博物館）

## ≡ キャンパスニュース ≡

### 東京大学囲碁部、連覇達成

昨年12月23日（火）～26日（金）に、日本棋院で第47回全日本大学囲碁選手権が行われ、東大は2年連続13回目の全国制覇を達成した。

春の関東リーグ戦は制覇したものの、秋の関東リーグでは早稲田大に優勝を持っていかれた東大にとって、全国大会出場をかけた12月7日（日）の早稲田とのプレーオフは、非常に厳しいものだった。結果は3-2の薄水の勝ち。個人の棋力ではほとんど変わらない、あるいはやや劣るかもしれない東大だが、チーム力とここ一番での勝負強さの分だけ相手を上回ったのかもしれない。全国出場は一昨年に引き続き2年連続である。前回34勝1敗という大会史上最高記録タイで優勝した選手たちは、今年こそは悲願の35勝完全優勝を目標としていた。

ところが最初の関門であった第4戦九州大戦で、主将田中が九大主将鈴木に敗れてしまい、3日目にして完全優勝の夢は消えた。

しかし、チームとしては順調に勝ち続け、6勝0敗（個人では29勝1敗）の圧倒的な強さで最終第7戦の立命館大戦へと進んだ。立命大も6勝0敗で来ていたのでこの勝負が優勝をかけた直接対決となった。

最初に五将長尾が敗れてしまったものの、主将田中、四将細川、三将宮平が勝ち名乗りを上げ、勝ちが確定した。副将神は平成14年の高校選手権優勝の立命副将山田に敗れてしまい、結果から言うと3-2の僅差の勝利だった。

振り返ってみると今回の大会は完全優勝を目指せるほどの余裕はなかった。完全優勝という目標が慢心となる可能性もあり得た。そのような中で32勝3敗という成績で優勝できたのは立派だと思う。来年は3連覇できるよう頑張りたい。

東大の成績 5-0（金沢）  
5-0（岡山）  
5-0（北海道）  
4-1（九州）  
5-0（名古屋）  
5-0（東北）  
3-2（立命館）

（学生部・東京大学囲碁部）

## ≡ 掲示板 ≡

## 平成16年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者の募集について

下記要項のとおり募集しますので、所属部局を通じ、研究協力部国際交流課まで提出願います。

なお、申請手続き等詳細につきましては、各部局担当掛へお問い合わせください。

各事業の申請書類は下記のURLにてダウンロードできます。

<http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/kenkyou/kokusai/gaku-kin.html>

## 平成16年度東京大学大学院学生学術研究奨励金給付申請者募集要項

## 1. 趣 旨

東京大学大学院学生の国外における学会報告及び各種研究上の調査（留学の場合を除く）に対し、東京大学学術研究奨励資金から学資を給付し、もって大学院学生の国際学術交流及び研究・教育の充実を図るものとする。

## 2. 応募資格

東京大学大学院に在籍する学生

## 3. 給付する学資

①平成16年6月から平成16年11月、及び、②平成16年12月から平成17年5月までに行われる国外における学会報告及び各種研究上の調査を行うために必要な経費のうち、渡航に要する費用の一部（エコノミークラスのディスカウント航空運賃を基準）を給付する。

## 4. 給付予定者数

各研究科（学府）、若干名とする。

## 5. 申請手続

学資の給付を希望する者は、下記の書類を所属研究科（学府）委員会委員長を通じて総長に提出する。

## (1) 提出書類

ア 申請書(様式1) 2部（原本1部及び写1部）

イ 説明書(様式2) 2部（原本1部及び写1部）

なお、当該学会・調査の概要を記載した要項等がある場合は、添付すること。

## (2) 提出期限

給付区分	渡航期間（出発月）	提出期限
①	平成16年6月～ 平成16年11月	平成16年4月1日(木)～ 平成16年4月16日(金)
②	平成16年12月～ 平成17年5月	平成16年9月15日(水)～ 平成16年10月1日(金)

なお、①の渡航期間において給付が決定した者は、②の渡航期間について申請することができない。

## (3) 提出先

所属研究科（学府）事務部

## 6. 選考及び結果の通知

給付対象者の選考は、所属研究科（学府）の意見を尊重して、東京大学学術研究奨励資金実施委員会において書類審査のうえ、総長が決定する。選考の結果は、所属研究科（学府）委員会委員長を通じて、①については5月下旬に、②については11月下旬に、申請者あて通知する。

## 7. 計画の変更・中止

申請した学会報告・調査を変更又は取り止める場合は、選考中あるいは給付決定後を問わず、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を通じて総長に報告し、その指示を受けること。

## 8. 報告書の提出

学資の給付を受けた者は、帰国後、速やかに所属研究科（学府）委員会委員長を通じて、総長に報告書を提出すること。

## 9. 問い合わせ先

所属研究科（学府）事務部又は事務局研究協力部国際交流課

(研究協力部)

「教養学部報」第472（2月4日）号の発行  
——教官による、学生のための学内新聞——

金子邦彦：生命とは何か

その普遍性論理を求めて

加藤雄介：2003年度ノーベル物理学賞

超伝導および超流動の理論に対する先駆的貢献

中澤英雄：アメリカの贖罪と救済 『ラスト・サムライ』  
の中の「インディアン」

大築立志：第11回身体運動科学シンポジウムいのちとこ  
ころをつなぐからだネットワーク

芝崎厚士：The Clash of Idealisms? 理想主義の衝突と  
しての21世紀の国際関係

池上俊一：駒場にイタリア語の輪を広げよう！

浦 雅春：チェホフ没後百年によせて？！

〈駒場をあとに〉・〈おくることば〉

丑野 毅：結局、ひとり言

伊藤亞人：丑野さんを送る

藤井貞和：未来志向と現実世界

小森陽一：言葉の源流へ

～藤井貞和先生を送る言葉～

大森正之：振り向けば 四季折々の 銀杏かな

池内昌彦：大森正之先生を送る言葉

〈本の棚〉

山本 巍：大貫隆著『イエスという経験』  
天上からの折れた梯子

斎藤兆史：斎藤兆史編『英語の教え方学び方』  
新しい英語教育を目指して

竹村文彦：丹治愛編『知の教科書 批評理論』  
批評理論の見取り図と読解の実演

田中 純：石田英敬著『記号の知／メディアの知—日常  
生活批判のためのレッスン』

〈時に沿って〉

金野大助：構内散策

「教養学部報」は、教養学部の正門傍、掲示板前、図書館入口、学生課ロビー、生協書籍部、保健センター駒場支所で無料配布しています。バックナンバーもあります。

(大学院総合文化研究科・教養学部)

21世紀COEプログラム「ゲノム医科学の展開  
による先端医療開発拠点」／IMSUT  
International COE Symposium Translational  
Research

医科学研究所では、「21世紀COEプログラム（ゲノム医科学の展開による先端医療開発拠点）／IMSUT International COE Symposium Translational Research」を以下のとおり開催いたします。（参加費無料）

日 時：2月27日（金） 13：00分～17：40分頃

2月28日（土） 9：00分～15：40分頃

会 場：医科学研究所 講堂

プログラム

2月27日（金）

13:00～13:10 開会挨拶 所長・山本 雅

13:10～14:00 Ira Pastan (NCI, Bethesda USA)

14:00～14:50 森下竜一 (大阪大学)

14:50～15:40 Nicholas C. P. Cross

(Salisbury District Hospital, UK)

15:40～16:00 休憩

16:00～16:50 渋谷正史 (医科学研究所)

16:50～17:40 吉田 純 (名古屋大学)

2月28日（土）

9:00～9:50 中尾一和 (京都大学)

9:50～10:40 Harren Jhoti

(アステックステクノロジー, UK)

10:40～11:00 休憩

11:00～11:50 Inder Verma (ソーク研究所, USA)

11:50～12:40 長村文孝・浅野茂隆 (医科学研究所)

12:40～13:50 休憩

13:50～14:40 藤堂具紀 (医学部附属病院)

14:40～15:30 田原秀晃 (医科学研究所)

15:30～15:40 閉会挨拶 新井賢一 (医科学研究所)

参加費無料 参加ご希望の方は、下記メールアドレスまでお申込み下さい

問い合わせ先：医科学研究所 学術連携推進室

E-Mail Locus@ims.u-tokyo.ac.jp

(医科学研究所)

## 博物館公開セミナー「石の記憶」展にちなんで

博物館では特別展「石の記憶—ヒロシマ・ナガサキ」展に関連した公開セミナーを下記のとおり実施いたします。事前申し込み等は必要ありませんので、ご自由にご参加ください。

日 時 2月19日(木) 13:00~16:30  
20日(金) 13:00~16:00  
場 所 総合研究博物館講義室(展示ルーム内)  
受講料 無 料

### 題目・講師等

2月19日(木) 13:00~16:30  
田賀井篤平(本館教授・鉱物学)  
「はじめに」  
橋 由里香(大学院理学系研究科・博士課程)  
「日本の原爆研究と被爆調査団」  
井手三千男(写真家)  
「爆心に入る—写真家・林重男と広島・長崎調査団—」  
2月20日(金) 13:00~16:00  
木下 直之(大学院人文社会系研究科助教授・文化資源学)  
「記憶されない広島」  
田賀井篤平(本館教授・鉱物学)  
「被爆調査のフィールドワーク」

問い合わせ先 ハローダイヤル 03-5777-8600  
ホームページ <http://www.um.u-tokyo.ac.jp/>

(総合研究博物館)

## 保健センターの業務休止のお知らせ

東京大学第二次学力試験及び入学予定者健康診断のため次のとおり保健センターの診療業務等を休止いたします。

- ・保健センター本郷支所(03-5841-2574)  
休診期間(救急は随時対応)  
3月10日(水)~4月2日(金)  
2月25日(水)~2月26日(木)  
(但し、精神神経科については問合せのこと)  
健康診断証明書の発行業務の休止期間  
2月25日(水)~2月26日(木)  
3月12日(金)  
3月16日(火)~3月23日(火)  
3月29日(月)~3月31日(水)
- ・保健センター駒場支所(03-5454-6831)  
休診期間(救急は随時対応)  
3月12日(金)  
2月17日(火)~3月15日(月)  
(内科は、月水金のみ診療、精神神経科につきましてはお問い合わせください。)  
3月16日(火)~4月8日(木)  
健康診断証明書の発行業務の休止期間  
3月12日(金)  
3月16日(火)~4月8日(木)
- ・柏健康相談室(04-7136-3040)  
通常どおり。内科診療は医師が電話連絡等で指示を行い対応します。

(保健センター)



## ≡ 事務連絡 ≡

## 人 事 異 動 ( 教 官 )

発令年月日	氏 名	異動内容 (新官職)	旧 (現) 官職等
		(辞 職)	
16. 1. 5	近 藤 駿 介	辞 職	大学院工学系研究科システム量子工学専攻 システム設計工学講座原子力システム工学 領域教授
16. 1. 31	藤 末 健 三	〃	工学部附属総合試験所助教授
〃	花 栗 哲 郎	〃	大学院新領域創成科学研究科助教授
		(採 用)	
16. 2. 1	一 木 隆 範	工学部附属総合試験所助教授	学校法人東洋大学工学部助教授
		(昇 任)	
16. 1. 16	引 地 史 郎	大学院工学系研究科助教授	大学院工学系研究科講師
〃	山 下 了	素粒子物理国際研究センター助教授	素粒子物理国際研究センター助手
16. 2. 1	山 本 智	大学院理学系研究科教授	大学院理学系研究科助教授
〃	佐 川 宏 行	宇宙線研究所助教授	高エネルギー加速器研究機構素粒子原子核 研究所助手
〃	山 室 修	物性研究所附属中性子科学研究施設中性子 複雑系物性領域助教授	大阪大学大学院理学研究科講師
〃	葛 山 智 久	生物生産工学研究センター助教授	分子細胞生物学研究所助手
		(配 置 換)	
16. 2. 1	須 賀 唯 知	大学院工学系研究科教授	先端科学技術研究センター教授
〃	鈴 木 宏 正	先端科学技術研究センター教授	大学院工学系研究科教授
		(転 任)	
16. 1. 16	元 橋 一 之	大学院工学系研究科助教授	一橋大学イノベーション研究センター助教 授
		(併 任)	
16. 2. 1	南 学	医科学研究所附属病院放射線科長	医科学研究所附属病院助教授



## ≡ 訃報 ≡

## 中村 道德 名誉教授

本学名誉教授の中村道德先生は、平成15年1月7日午前4時ごろ逝去されました。享年86歳でした。告別式は1月11日、宝仙寺にてしめやかにとり行われ、先生を偲んで多数の方々が参列されました。中村先生は永年にわたって生物化学の教育研究に専念され、数多くの優れた研究成果を発表するとともに、多くの優れた人材を育てられました。



中村先生は昭和16年に東京帝国大学農学部農芸化学科を卒業され、同年大学院に進学されました。昭和20年より職員として勤務され、昭和24年助手、昭和30年助教授、昭和44年には教授に昇任され、昭和53年に停年退官になるまで東京大学一筋に教育研究を展開されました。この間、先生はおもに澱粉など糖質の研究に従事され、多大な業績をあげられました。植物種子における澱粉粒の分解機構の解明、イヌリンの生合成機構の解明などはその主なものです。また、微生物によるイヌリン型多糖の発見なども見逃せぬ功績といえるでしょう。

同時に、リン酸や糖の定量法など基礎的な研究法の開発も手がけられ、特にリン酸の定量法として「中村の変法」は有名です。中村先生はこのように基礎的ならびに実用的研究を行い、学術的、社会的に多くの成果を得られました。昭和53年には澱粉の生合成と構造に関する優れた考察に対して二國賞を受賞されています。

中村先生は非常に勉強熱心であられ、主な論文の文献カードを作成されるなどきちんと情報を整理され、その博識をもって学生を熱心に指導されました。また、中村先生は議論、考察に卓越したものがあられ、学問のみならず、いろいろな制度についても学生、同僚に先駆的な考えを披露され、大きな影響を与えられました。このような論理的な態度は定年まで続き、あるときは農学部図書

館長として活躍され、なるべく長い時間勉強が可能という配慮から、図書館の開館時間を延長されるなど研究環境の改善に努力されました。現在はこのころよりさらに開館時間も長くなっておりませんが、このような研究環境を改善しようとする流れに中村先生は大きく貢献されたといえるでしょう。

東京大学を停年退官された後、東京農業大学総合研究所に移られ、研究を続けられ、澱粉のレオロジーに関する研究を展開されました。任期満了により、平成13年に職を退かれるまで約20年の長きにわたり東京農業大学で後進の指導に当たられ、東京農業大学でも多くの学生にご薫陶を与えられました。中村先生は、大学以外の場でも澱粉に関する研究にご尽力され、昭和58年から64年まで日本澱粉学会会長を務められ、学会の近代化を推進されました。そのほか、長年にわたり、澱粉研究懇談会の代表世話人として糖質分野の研究の産学連携を推進されるなど多くの研究者の相談役としても活躍され、日本の学術の発展に貢献されました。

また、カゴメ株式会社研究所所長も務められ、民間分野においても多数の人々を指導され、ご逝去間近まで学問の世界に貢献されました。東京大学農学部農芸化学科生物化学教室は長い歴史があり、数々の著名な研究者、教育者を輩出してきました。中村先生はその伝統を守り、多くの学生に生物化学の研究のあり方につき指導され、新しい時代の優秀な人材を育成されました。実際に、中村先生のご薫陶を受けた者たちの多くが学術分野や民間において、重要な地位を占め、日本の科学の発展を支えていることを見ても、研究のみならず、教育面においても中村先生の功績の大きさが理解できると思われま

す。ここに慎んで、哀悼の意を表し、中村道德先生のご冥福をお祈り申し上げます。

(大学院農学生命科学研究科・農学部)

## 原 稿 募 集

「学内広報」に学内の情報をお寄せください。

- ・文字数 800字以内
- ・写真には、キャプション（説明文）を添えてくださるようお願いします。

---

「学内広報」には、みなさんから投書を寄せていただく欄として「噴水」、東京大学と社会との連携・協力情報を紹介するための欄として「窓」が設けられています。これらの欄への投書要領は次のとおりです。

### 「噴水」

- 1 本学における教育・研究活動等に関する意見を述べたものであること。
- 2 個人の投稿で所属・氏名を明記したものであること。
- 3 他者への非難・攻撃を含まないものであること。

### 「窓」

「東京大学とその周辺地域の歴史」、「学外機関より本学構成員への表彰」、「学外の方からの東京大学に関する意見」など、東京大学と社会との関係に関する情報であること。

以上の要件をそなえるものの中から、広報委員会が適当とするものを、適宜、掲載します。

送り先 東京大学事務局総務部総務課広報室  
03-3811-3393 内線：82032、22031、 FAX：3816-3913  
E-mail：kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

### ◇広報室からのお知らせ

平成15年度「学内広報」の発行日及び原稿締切日を、東京大学のホームページに掲載しました。

URL: <http://www.adm.u-tokyo.ac.jp/soumu/soumu/kouhou.htm>

## Dejima

長崎出島——堀に囲まれ、隔離された空間。今から見れば、よくもオランダの商人達はその狭い場所に暮らせたものだ、と誰もが思うだろう。しかし、聞くところによれば、それなりに食べ物、飲み物、遊びの機会が手に入って、当時の幕府が考えた「外国人にとって良い設備」であったようである。

鎖国の世が終わり、横浜や築地に外国人居留地ができ、オランダ人以外の西洋人も日本に定住するようになるが、やはり堀、川などに囲まれ、とりあえず身動きしにくい生活が強いられた。しかし、これら居留地の中の生活は割と豊かで、そばに遊郭まで許された、という。やはり、お上が考えた「外国人にとって良い設備」といったところだろう。

最近、東京の品川に新しい入国管理事務所ができた。待つ時間と窓口の対応はあまり改善されていないものの、レストランまで設けられ、清潔感にあふれた「外国人にとって良い設備」の部類に数えてもいいであろう。しかし、そこにはいくつかの川と運河を越えないと辿り着かない不便で隔離したところにある。やはり、官僚頭の中で、外国人と水が不思議な縁で結ばれているらしい。



現在、日本に住んでいる外国人の数が非常に増え、大都市ではもはや珍しい存在でなくなっている。日本の教育機関においても留学生の数がついに10万人を突破した、という。この東京大学でも、今年は2070人もの留学生がいるそうである。さて、大学にいる「外国人にとって良い設備」は何だろう。

近頃は、「外国人にとって良い設備」として、「留学生ラウンジ」、「国際交流会館」などの空間は国立・私立を問わず、多くの大学で誕生している。大変親切な試みといえよう。しかし、水によってこそ隔離されているわけではないが、結果としてガラスと壁で外国人だけのスペースになってしまったケースがかなり多いようである。「先生、ここじゃ日本人の友達が出来ない」としばしば耳にする。これに対して「じゃ、日本人学生が集まる普通のラウンジ、交流会館などに行けばいいじゃないか」と答えてあげたいところだが、そういう場所はあまりにも少ない。日本人学生だって友人に会ったり、雑談したり、議論したり、また教員、職員、学生などと新しい出会いが出来る場が欲しいではなからうか。

結局、「外国人にとって良い設備」は「人間にとって良い設備」である。国籍を問わず、よりお互い接しやすい環境を作って欲しいと思うのは留学生だけではないはず。

(大学院総合文化研究科 ジョン・ボチャラリ)

(淡青評論は、学内の職員の方々にお願いして、個人の立場で自由に意見を述べていただく欄です。)

## 〔訂正〕

「学内広報」No.1280 (2004.1.28) において一部誤りがありましたので、訂正して、お詫びします。

1 ページ

(誤) 2003.1.28 → 2004.1.28

1 2 ページ左段 7 行目

(誤) 正司 → 正路

この「学内広報」の記事を転載・引用する場合には、事前に広報委員会の了承を得、掲載した刊行物若干部を広報委員会までお送りください。なお、記事についての問い合わせ及び意見の申し入れは、総務課広報室を通じて行ってください。

No 1281

2004年2月12日

東京大学広報委員会

〒113-8654 東京都文京区本郷7丁目3番1号

東京大学総務課広報室 ☎ (3811) 3393

e-mail kouhou@ml.adm.u-tokyo.ac.jp

ホームページ <http://www.u-tokyo.ac.jp/jpn/index-j.html>